

愛知東邦大学 シラバス

| | | | |
|--------------------|-------------|-----------------------------|----|
| 開講年度(Year) | 2024年度 | 開講期(Semester) | 後期 |
| 授業科目名(Course name) | 教育方法論 (中・高) | | |
| 担当者(Instructors) | 丹下 悠史 | 配当年次(Dividend year) | 2 |
| 単位数(Credits) | 2 | 必修・選択(Required / selection) | 必修 |

| | | | |
|---|--|--|--|
| ■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline) | | | |
| <p>教育方法の基盤となる教授や学習に関わる諸理論を理解し、今日的な指導技術、評価法、教材の活用法等を身につけることを通して、生徒の深い学びを実現させる授業を計画、実施する能力の基礎を身につける。以上の内容を、グループワークや発表の機会を取り入れながら、講義及び演習形式で行う。</p> | | | |

| | |
|----------------------------------|---|
| ■ 授業形態・授業の方法 (Class form) | |
| 授業形態(Class form) | 講義 |
| 授業の方法(Class method) | 講義形式で行う。授業の内容に応じて、ディスカッションおよびグループワークを取り入れる。 |

| ■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents) | | | |
|--|--|---|--------------------------|
| 回数(Num) | テーマ(Theme) | 内容(Contents) | メディア区分(Media) |
| 第1回 | 本授業の概要：子どもの深い学びを成立させる授業の要件 | はじめに講義の趣旨、内容、評価等について説明する。よい学びを成立させる授業の要件とは何か、各自が経験を振り返りながら考察する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第2回 | 教育目標論の展開：教育方法のあり方（求められる資質・能力） | 教育目標論の展開を学び、現代社会に求められる資質・能力とは何かを考察する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第3回 | 教授・学習の理論（1）：教育方法の基礎理論（行動主義・構成主義・社会的構成主義）とそれにもとづく実践 | 教育方法の基礎理論（行動主義・構成主義・社会的構成主義）とそれにもとづく実践方法を学ぶ。 | <input type="checkbox"/> |
| 第4回 | 教授・学習の理論（2）：発見学習、プログラム学習等 | 発見学習、プログラム学習等の学習方法について理解し、それらの意義や課題を考察する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第5回 | 授業の構成要素と教育方法の原理：生徒・教師・教材・学習環境と指導法 | 生徒・教師・教材・学習環境と指導法といった授業の基本構成要素とそれらの関係について理解を深める。 | <input type="checkbox"/> |
| 第6回 | 学習指導論（1）：教材の選択・解釈（「である」教材と「になる」教材） | 教材の選択・解釈の仕方を学ぶ。「である」教材と「になる」教材の活用法を考察する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第7回 | 学習指導論（2）：授業の基礎的な技術：話法・発問・板書 | 授業の基礎的な技術：話法・発問・板書について理解を深める。 | <input type="checkbox"/> |
| 第8回 | 学習指導案の作成（1）：指導案の書き方：生徒観・教材観・指導観・指導の展開 | 模擬授業に向けて、指導案の書き方（生徒観・教材観・指導観・指導の展開）を理解する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第9回 | 学習指導案の作成（2）：指導案作成の実施（主体的・対話的で深い学びの実現のために） | 模擬授業に向けて、前回の内容を生かして指導案を作成する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第10回 | 学習指導案の作成（3）：発表と相互評価 | 受講生による模擬授業と相互評価を行う。 | <input type="checkbox"/> |
| 第11回 | 情報機器と教材（1）：情報機器を活用した教材の作成・提示 | 情報機器を活用した教材の作成・提示の方法を学び、ICTの教育利用の意義と課題を考察する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第12回 | 情報機器と教材（2）：情報活用能力・情報モラルを育成する指導法 | 情報社会と呼ばれる現代の情報利用に関する諸課題を理解し、情報活用能力・情報モラルを育成する指導法を考察する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第13回 | 授業研究と評価（1）：授業研究と教師の成長 | 授業研究を中心とした授業改善の取り組みや、教師の成長との関わりを理解する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第14回 | 授業研究と評価（2）：授業分析による学びの可視化と評価 | 授業研究のプロセスの一部である授業分析による学びの可視化や、その応用としての学習評価の方法を理解する。 | <input type="checkbox"/> |

| | | | |
|------|---------|--|--------------------------|
| 第15回 | 本授業のまとめ | これまでの学習内容を振り返り、教育の方法についての理解度や課題を明確化する。 | <input type="checkbox"/> |
|------|---------|--|--------------------------|

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、テキストまたは参考図書から次回の講義内容に関連する箇所を指定し、当日までに2時間程度の学習（読解・要約）を課す。事後学習として、講義の終わりに提示した問いに対し、授業内容およびテキスト、参考図書を参照して2時間程度で自分なりの解答をまとめることを課す。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回の授業で記述式の小テストを課す。次の回の授業で解答例を提示し解説する。授業の最終回に、全15回の内容に関するテストもしくは小レポートを課す。実施後、LMSに解答例と解説を示す。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

| 区分(Division) | DP区分(DP division) | 内容(DP contents) |
|--------------|-------------------|---|
| | ◆ 教職課程 | 1. 学校教育の目標、方法、評価に関する基礎的理論を体系的に説明できる。 2. 教育活動の特質に応じて適切な指導法を選択し学習指導案を作成できる。 3. 情報機器の特性を理解し、教育目的に応じて活用すべき場面や活用法を判断できる。 |

■成績評価(Evaluation method)

| 筆記試験(Written exam) | 実技試験(Practical exam) | レポート試験(Report exam) | 授業内試験 (in-class exam) | その他(Other) |
|--------------------|----------------------|---------------------|-----------------------|------------|
| 30% | | | | 70% |

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内課題（小テスト、学習指導案の作成、模擬授業など）

■テキスト(Textbooks)

| No. (No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|-----------|--|----------------|
| 1 | 文部科学省「中学校学習指導要領」（インターネットからダウンロード可）平成29年3月告示 | 978-4827815580 |
| 2 | 文部科学省「高等学校学習指導要領」（インターネットからダウンロード可）平成30年3月告示 | 978-4827815672 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

■参考図書(references books)

| No. (No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|-----------|-----------------------|----------------|
| 1 | 佐藤学『教育方法学』岩波書店 | 978-4000260053 |
| 2 | 田中耕治ほか『新しい時代の教育方法』有斐閣 | 978-4641221253 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |